

2023 沢便り2 転進ナメラ沢

(2023/7/10)

M浦、H口

昨年秋、武甲山の下山路から見た両神山の姿が格好良くて、今年は登ってみたいと思っていた。登るなら金山沢からと決めて、Aややに声を掛けてみた。

神流川沿いの道の駅を早朝に出て志賀坂トンネルの出口から八丁峠へ向かう林道に入ろうとすると、「えっ?!」バリケードが張られ通行禁止となっていた。

仕方が無いので神流川沿いの道に戻り、北側から大きく回って八丁峠の反対側の道に出ようとした。しかし野栗沢から奥へ入ろうとした所で『この先通行できません』。

地図を見直し、今度は志賀坂トンネルを直進し、尾ノ内から三峰口へ両神山の南側を大きくぐると回り込んで、奥秩父もみじ湖から八丁峠へ向かう林道に入ろうとしたが、ここにも『工事車両以外通行禁止』のバリケード。

「ヘルメット被って工事の振りして突っ込みますか?」とAややが言ったがそれではできないわけがない。八方塞がりとなり、しばらく車の中で呆然とした。最近ヤマレコに遡行記録が載ってないなどは思っていたがこういうことだったのか。

まだ9時前だった。天気は良く何もしないで帰るという手は無い。もうここは雁坂トンネルのすぐ近くだったので秩父側に戻るよりトンネルの先の山梨側の方が近い。Aややは「乾徳山とかは」なんて言っておきながら、本当は買ったばかりの沢靴を試してみたいようだ。沢への転進としては地図が無かったが、沢のグレードも高くなくお互い行ったことがあるナメラ沢ならいいだろうということになった。もちろんAややのiPadで位置確認できることを前提として。

雁坂トンネル出口の駐車場に車を止め、下山連絡担当をお願いしているI崎さんに転進の連絡を入れ、9:35出発。沢までのアプローチが長いので僕は登山靴にしたが、Aややの新しい沢靴はラバーソールなのでそのまま履いて行く。ラバーソールを使うのは初めてだそうだがこういうアプローチにも使えるところがいいんだな。

ここに来るのは13年ぶりだったが、こんな橋あったなとか、こっちへ曲がるんだったなとか結構景色を憶えているものだ。

ゆるくはあるが上りが続く。途中、Aややは靴が踵に当たると言って沢靴を履き直した。

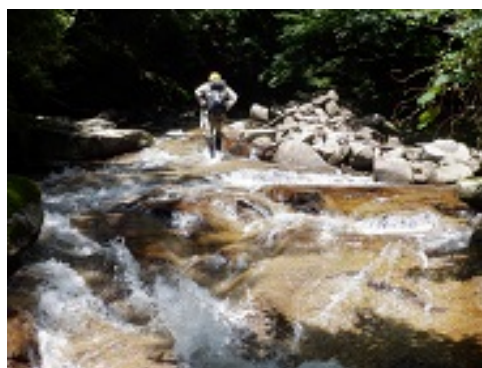
40分ほど歩いて登山道から斜面を下って峠沢の河原へ下りた。そこで僕が沢靴に履き替える間、Aややは踵にできたマメの手当をしていた。

10:40、入渓。峠沢を少し下ってナメラ沢出合に着く。ナメラ沢はかつて美溪と言われていたそうだが、13年前に来た時は倒木あり土砂ありで噂ほどではなかった覚えがあるが今回はどうだろう。

歩き始めて間もなく「あっ!」とAややの声が上がる。

「やばい、この靴滑る。乾いた所はいいんだけどああいう茶色っぽい岩は全然。次の一歩が出せない。」

これまでフェルト底を履き続けていたせいでラバー底の歩き方に慣れていないせいもあるかもしれない。でも取り敢えず注意しながら行ってみると言う。



2段5m滝が現われる。水流のすぐ右をよじ登る。飛沫で左半分が濡れたが気持ちいい。しかし足場に不安があるAややは左岸の凹角を上がって来た。

倒木や土砂はあるものの時々きれいなナメ床が現われる。そんな所に美溪を感じさせながら沢は続く。

斜度の緩い2条10mの滝も沢床は滑らかだが、滑らかなほどAややは歩きにくそうだ。

「あれだね、もし金山沢に行けたとしても120mのナメを歩くの厳しかったかもしれないね。」

そう言うとAややがぼかんと口を丸く開いた。

左岸から階段状の滝が落ちている所で一本取った。

「下界じゃ35度超えだって言うけど沢の中は気持ちいいね。」

50mの長いナメが出てきた。岩盤の浅い窪みを探しながら上がって行く。長く続く先を見るが、途中で倒木が無ければ相当いい眺めなのだけれど。



二本目の休憩を取ってAややのiPadで位置確認をした。

「沢をどこで上がりますか。」

右岸に尾根を辿る道があり、ヤマレコでは1,800m付近で上がっている記録があった。その手前の1,650mくらいで右岸から入る沢筋を使うのも良さそうだ。

「まあ、あと1時間くらい歩いた所でってことで」と流れに任せることにする。

いったん沢の音が静かになり水量が少なくなるともういいかという気持ちになったが、しばらくするとまた水量が増してきてナメ床も現われるようになった。

見覚えのあるゴツゴツした10m滝が現れた。こういう所はAややも歩きやすそうだ。上がった所が1,650mくらいで右岸から支沢が射し込んでいた。

「ここから上がろう。」

時計は13時、斜度はあったがゴツゴツした滝と同じような岩質だったのでAややの足取りも問題無い。沢筋を上がって行くと左に踏み跡があったのでそちらを辿る。ほぼ平らになった所で再びAややにiPadで確認してもらおうと

「大丈夫、いい感じで尾根に乗ってます。」

「さすが、鬼に金棒、AややにiPad」と言うと

「ホリホリにダジャレ。」

「それって意味的に合ってる？」

Aややの口がまたぼかんと丸くなった。

小笹を分ける細い登山道に出た。20分ほどで上がって来れて大正解。ここで僕は靴を登山靴に履き替えた。靴を履き替えないAややは代わりにシャツを1枚脱ぎ半袖になった。

登山道は細いが赤テープが付けられ続けている。尾根筋が広がると赤テープは無くなり『境界地』のプレートが木に付けられていた。

雁坂トンネル付近の橋が見えた所からは下りの斜面がきつくなりおそらく明日あたり足に来そうだ。

ようやく出た所は雁坂トンネルに通ずる道路。暗い口を開けたトンネルの中には狭い歩道が付いていてスピードを出した車が脇を通ると怖い。駐車場に15時に戻ることができた。

温泉はAややのリクエストで『ほったらかし温泉』へ向かうことにした。雁坂みちを下って行くと

「ああ、なんか今ひとつなんだよなあ」とAやや。

沢靴のトラブルのことを言っているのかと思ったら、

「それもそうなんですけど、前来た時の方が良かったなあ。…倒木がねえ。」

僕にとっては前に来た時にも倒木があったのであまり変わりは無かったのだけれど、美溪と言われていた頃に来たんだろう。

丘の上にある『ほったらかし温泉』の露天風呂からは富士山や甲府盆地が見渡せた。伸びやかな景色に心身がほぐれる。強アルカリ性のお湯もいい。

「両神山はどちらの方角ですかね？」

林道が通れるようになったら改めて行こうと話しをした。

やがて話しは8月に行く北海道のことになる。

「ああ、靴どうすっかなあ。」

まあ、あと1ヵ月あるんでのんびり考えればいいよ。

(H口 記)